

研修テーマ	「ダニの多様な生態と防除」	参加者	埼玉県支部 20名 その他 9名
講師	五箇公一氏 国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室室長	場所	「With You さいたま」視聴覚教室
資料	ダニが語る生物多様性	記録	田窪隆彦
目的	自然界のいたるところに生息するダニは、腐食生性、動物寄生性、植物寄生性、捕食性、食菌性、雑食性と実に多様である。今回は植物に害を与えるハダニ類、新興感染症を引き起こすマダニを中心に、身近なダニ類の生態を学び、ダニによる病害の防除に役立てることを目的とする。		

研修内容

第一部 生物多様性はなぜ大切か？

我々人間は、生物多様性が生み出す様々な生態系サービス享受着て生きていること、そして地域性・固有性・個性こそが生物多様性の持続性を支えていること、さらに生物多様性の階層性、生物多様性を脅かす要因、外来生物の生態系への影響などについて講義を受けた。



講義風景(生物多様性の階層性)



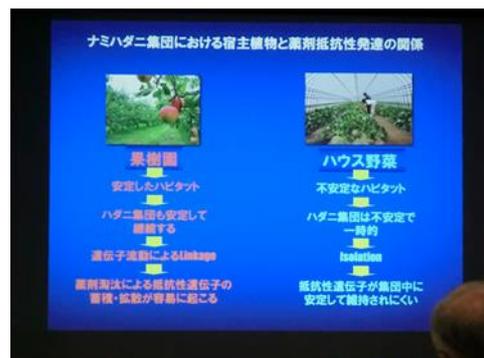
講義風景(生物多様性の崩壊)

第二部 ダニとはどんな生き物か？

ダニは腐食性、昆虫寄生性、動物寄生性、植物寄生性、海産などに分類され、現在分かっているものだけでも5万種あるが、害虫とされるものはその中のほんの一部であること、そして世界的重要農業害虫であるハダニについて、その生活史、薬剤感受性などについての講義を受けた。ナミハダニ集団における宿主植物と薬剤抵抗性発達の関係について見ると、果樹園は安定した環境であり、薬剤抵抗性が出ているのに対し、ハウス野菜は不安定な環境となり、薬剤抵抗性はあまり出て来ないという。



講義風景(ダニの分類)



講義風景(薬剤抵抗性)

今回、限られた時間の中でダニを媒介とした、今世界が直面している問題について、大変興味ある講義を頂いたので、是非第二弾も期待したい。